

令和4年度

愛媛大学理学部  
第2年次  
編入学学生募集要項

自然災害の発生や感染症の流行等による入学試験の実施について

自然災害の発生や感染症の流行等によって、入学試験の実施が懸念されるときは、本学のホームページで試験開始時刻の繰り下げや、試験の中止・延期、選抜方法の変更等の対応をお知らせしますので、定期的にホームページで確認してください。

受験情報サイト (URL)

<https://juken.ehime-u.ac.jp/>



愛媛大学理学部

# 目 次

1. 理学部に編入学を目指すみなさんへ	1
2. 募集人員	1
3. 編入学の時期及び編入学年次	1
4. 出願資格	1
5. 出願手続	2
(1) 出願期間	2
(2) 出願方法	2
(3) 出願書類等の請求及び提出先	2
(4) 出願に必要な書類等	2
(5) 検定料の返還	3
6. 選抜方法	4
7. 学力試験等の配点	4
8. 学力試験等の出題範囲と採点・評価基準	5
(1) 専門科目の出題範囲	5
(2) 採点・評価基準	5
9. 合否判定基準	5
10. 合格者発表	5
11. 編入学確約書の提出	5
12. 入学手続	5
13. 編入学後の単位認定	6
14. 編入学後の履修プログラム	6
15. 初年度の諸経費	6
16. 注意事項	6
17. 合理的配慮を希望する入学志願者の出願	6
18. 正解・解答例又は出題意図の開示	7
19. 入学試験個人成績の開示	8
20. 個人情報の取扱い	8
21. コースの概要	9

## 1. 理学部に編入学を目指すみなさんへ

科学は、数理、物質、自然、生命を支配する原理や法則を探究する学問であり、身の回りの「何故」に対する合理的な答えを知りたいという知的好奇心が積み重なって発展してきました。理学部は、数学・数理情報、物理学、化学、生物学、地学の理学5基幹分野を基盤に、宇宙・地球・環境に関連する学際的分野に携わる先端研究・学術推進機構の研究センター群と協働して教育・研究を実施しています。理学部は、数理・物質・自然・生命にかかわる事柄に広く興味を持ち、科学を体系的に学習して理系人材として社会で活躍しようと志す入学者を受け入れ、各教育コースの特徴ある専門教育を通して汎用能力を有す理系人材として育成し、社会に送り出します。

この目的のために、理学部では次のような資質を有する学生を求めます。

1. 大学初年次レベルの知識・教養を修得しており、自律的に学習を進める準備がある。
2. 大学初年次の数学または高校課程の理科の十分な基礎学力を有し、数理・物質・自然・生命の探究に興味を持ち、科学をさらに深く学び理解しようとする意志がある。
3. 物事を論理的に考察し、自分の考えを論理的にまとめて表現することができる。
4. 継続的な学習により成長し、倫理観・責任感をもって主体的に社会とかかわり貢献しようと志している。

## 2. 募集人員

	学 科 等	募 集 人 員
理学科	数学・数理情報コース	各コース若干人
	物 理 学 コ ー ス	
	化 学 コ ー ス	
	生 物 学 コ ー ス	
	地 学 コ ー ス	

## 3. 編入学の時期及び編入学年次

令和4年4月1日、2年次の編入学となります。

## 4. 出願資格

次のいずれかに該当する者とします。

- ① 大学を卒業した者又は令和4年3月までに卒業見込みの者
- ② 短期大学を卒業した者又は令和4年3月までに卒業見込みの者
- ③ 高等専門学校を卒業した者又は令和4年3月までに卒業見込みの者
- ④ 修業年限4年以上の大学に1年以上在学（休学期間を除く。）し、31単位以上を修得している者又は令和4年3月までに修得見込みの者

- ⑤ 修業年限が2年以上で、かつ、その他の文部科学大臣が定める基準を満たす高等学校（中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等部を含む。）の専攻科を修了した者及び令和4年3月に修了見込みの者（学校教育法90条第1項に規定する大学入学資格を有する者に限る。）
- ⑥ 外国において、学校教育における14年以上の課程（日本における通常の課程による学校教育の期間を含む。）を修了した者又は令和4年3月までに修了見込みの者で、上記①②③④の各号の一に相当すると認められるもの
- ⑦ 専修学校の専門課程（修業年限が2年以上で、かつ、課程の修了に必要な総授業時間数が1,700時間以上のものに限る。）を修了し、大学入学資格を有する者又は令和4年3月までに修了見込みで、大学入学資格を有する者

- 注) 1. 上記⑤⑥⑦により出願しようとする者は、出願資格の有無等の事前協議を行うので、令和3年9月3日（金）までに理学部入試係まで申し出てください。
2. 上記の①②③⑤⑥⑦の「卒業（修了）見込みの者」に該当する者が入学試験に合格した後（入学後も含む）に卒業（修了）できないことが明らかになった場合は、合格を取り消します。また、入学後に合格が取り消された場合でも、入学金は返還されません。
3. 上記④の「大学において31単位以上を令和4年3月までに修得見込みの者」が、入学試験に合格した後（入学後も含む）にこれらの単位を修得できないことが確定した場合は、合格を取り消します。また、入学後に合格が取り消された場合でも、入学金は返還されません。

## 5. 出願手続

### (1) 出願期間

**令和3年9月24日（金）～9月30日（木）〔9月30日（木）の消印有効〕**

出願期間内に配達されたもの及び10月1日（金）以降に配達されたもののうち、9月30日（木）以前の日本国内発信局消印があるものを受け付けます。

### (2) 出願方法

必ず本学部所定の出願用封筒を使用し、「速達・簡易書留郵便」で送付してください。  
 なお、直接持参しても受理しませんので注意してください。

### (3) 出願書類等の請求及び提出先

愛媛大学理学部入試係

〒790-8577 松山市文京町3番

電話 089-927-9546

Eメール scigakum@stu.ehime-u.ac.jp

※ 出願書類等を請求する際は、志願者のあて先を明記し210円分の切手を貼った返信用封筒角形2号（33cm×24cm）を同封の上、封筒に「第2年次編入学出願書類等請求」と朱書してください。

### (4) 出願に必要な書類等

- ① 入学志願票（本学部所定の用紙に必要事項を記入したもの）
- ② 出身学校の卒業証明書又は卒業見込証明書（出願資格①、②、③、⑤、⑥又は⑦に該当する者）

- ③ 出身学校の成績証明書（令和4年3月までに修得見込みの科目については、評価の欄に印を付したもの）※成績証明書に修得見込み科目が表示されない場合は履修中の科目が分かるもの（履修証明書・時間割等）を成績証明書と一緒に必ず送付してください。
- ④ 出願資格④に該当する者は、所属大学が発行する在学期間証明書（本学所定の用紙）
- ⑤ 在職中の者は、所属長の出願承諾書（本学所定の用紙）
- ⑥ 写真2枚（上半身・無帽・正面向きで、出願前3か月以内に撮影したもの、白黒又はカラー、縦4cm×横3cm）を写真票及び受験票の所定欄に貼ってください。
- ⑦ 検定料払込証明書（検定料30,000円を最寄りの郵便局又はゆうちょ銀行の窓口（他の金融機関からの振込みはできません。）から払込後（ATMは使用しないでください。）、日附印を押した「振替払込受付証明書（大学提出用）」を「検定料払込証明書」に貼って提出してください。なお、払込済の検定料は⑤の返還請求ができる場合を除き、返還しません。）
- ⑧ 志願者名票（本学所定の用紙に、志願者の住所、氏名等の必要事項を記入したもの）
- ⑨ 返信用封筒（本学所定の封筒に、志願者のあて先を明記（必ず郵便番号を記入すること）し、354円分の切手（速達）を貼ったもの。）

(5) 検定料の返還

次に該当した場合は、納入済みの検定料を返還します。

- ① 検定料を納入したが、出願しなかった場合
- ② 検定料を二重に納入した場合又は誤って所定の金額より多く納入した場合
- ③ 出願書類を提出したが、出願が受理されなかった場合

**【返還請求の方法】**

上記①又は②に該当した場合は、下記の連絡先に連絡してください。「検定料返還請求書」を送付しますので、必要事項を記入の上、郵送してください。

上記③の場合は、出願書類返却の際に「検定料返還請求書」を同封しますので、必要事項を記入の上、下記の連絡先に郵送してください。

連絡先 〒790-8577  
 松山市道後樋又10番13号  
 愛媛大学財務部財務企画課出納チーム  
 電話 089-927-9074,9077  
 Eメール [suitou@stu.ehime-u.ac.jp](mailto:suitou@stu.ehime-u.ac.jp)

**\* 検定料免除の特例措置について**

自然災害により被災した進学希望者の経済的負担を軽減し、進学機会の確保を図るため、以下に該当する場合は、検定料免除の特例措置を行います。

- 自然災害により災害救助法適用地域において被災し、次のいずれかに該当する場合
- (1) 学資負担者又は志願者が災害救助法の適用を受けた地域に所有する自宅家屋が全壊、大規模半壊、半壊又は流失した場合
  - (2) 学資負担者が災害救助法の適用を受けた地域で、当該災害により死亡又は行方不明となった場合

※免除の対象となる入学試験：災害救助法適用日の属する年度内に実施される入学試験  
 詳細は本学ホームページをご覧ください。

(<https://www.ehime-u.ac.jp/entrance/exempt/>)

## 6. 選抜方法

学力試験及び面接の結果並びに出身学校における成績証明書等の書類により、合否判定基準に基づき判定します。

月 日 (曜)	学力試験科目等	教育コース	時 間	
令和3年10月16日 (土)	数 学	数学・数理情報	10:30 ~ 12:10	
	物 理 学	物 理 学		
	化 学	化 学		
	生 物 学	生 物 学		
	地 学	地 学		
	面 接		数学・数理情報	13:10 ~
			物 理 学	
			化 学	
			生 物 学	
			地 学	
場 所	愛媛大学理学部 松山市文京町2番5号			
注意事項 ① 試験開始20分前までに試験室に入室してください。なお、遅刻限度時刻は試験開始後30分とします。 ② 試験場所等の詳細は、試験前日、理学部2号館前の掲示で確認して下さい。 ③ 受験者は、本学が交付した受験票を必ず携帯してください。				

## 7. 学力試験等の配点

コース \ 試験科目	専門科目	面接及び書類審査	計
数 学 ・ 数 理 情 報	(数 学) 200	100	300
物 理 学	(物 理 学) 200	100	300
化 学	(化 学) 200	100	300
生 物 学	(生 物 学) 200	100	300
地 学	(地 学) 200	100	300

## 8. 学力試験等の出題範囲と採点・評価基準

### (1) 専門科目の出題範囲

専門科目	出題範囲
数 学	微積分（1変数関数に限る。）及び線形代数（ベクトル，行列（連立1次方程式を含む。），行列式）
物 理 学	高校物理程度の問題
化 学	高校化学程度の問題
生 物 学	高校生物程度の問題
地 学	高校地学程度の問題

### (2) 採点・評価基準

試験科目等	採点・評価基準（一般的基準）
専門科目	本学部各コースの2年次以降の学修に対応できるよう，専門科目の基礎学力について評価する。
面接及び書類審査	目的意識，勉学意欲，基礎的知識，理解力及び創造力並びに出身学校における単位の修得状況及び成績などについて総合的に評価する。

## 9. 合否判定基準

- (1) 総合点で合否を判定する。
- (2) 同点者は，同順位とする。

## 10. 合格者発表

令和3年11月4日(木)10時に，理学部本館玄関前に受験番号で合格者を発表するとともに，受験者に合否結果の通知を送付します。

(注) 電話・メール等による合否結果の照会には一切応じません。

## 11. 編入学確約書の提出

編入学試験の合格通知を受けた者は，本人及び保証人が連署した『編入学確約書』を令和3年11月12日(金)までに提出しなければなりません。

なお，期日までに提出されない場合は，辞退したものとして取り扱います。

## 12. 入学手続

入学手続については，編入学確約書提出者に対して，令和4年3月に改めて通知します。

### 13. 編入学後の単位認定

編入学者が出身学校で修得した単位の一部は、審査を経て、科目の講義内容に応じて、本理学部の科目の単位として認定されます。

なお、出身学校で修得した単位がすべて認定されるわけではありません。

また、これらの認定単位数を含め、3年次終了時までには本学部で定める単位数（卒業研究履修要件）を修得できなかった場合は、4か年以上の修業年数が必要になります。

### 14. 編入学後の履修プログラム

理学部では、5つの教育コース（数学・数理情報、物理学、化学、生物学、地学）があり、それぞれのコースの学習目標に応じた履修モデルが用意されています。また、コースとは別に多様な学びをサポートするため、3つの履修プログラム（標準プログラム、科学コミュニケーションプログラム、宇宙・地球・環境課題挑戦プログラム）を備えていますが、編入学後の履修プログラムは、原則標準プログラムとなります。

### 15. 初年度の諸経費

初年度に必要な諸経費は、おおむね次のとおりです。入学料及び授業料の額は令和3年度納付額であり、令和4年度は改定になる場合があります。

入学料 282,000円

授業料 535,800円（前期分:267,900円 後期分:267,900円）

その他 58,620円（理学部後援会費、理学部同窓会費、校友会費、学生教育研究災害傷害保険、学研災付帯賠償責任保険）

合 計 876,420円

※ 在学中に授業料の改定が行われた場合には、改訂後の授業料を適用します。

### 16. 注 意 事 項

- (1) 入学志願票の記載事項及び提出書類に不備があるものは、受け付けません。
- (2) 出願書類受理後は、いかなる理由があっても記載事項及び書類の変更は認めません。また、出願書類は返却しません。
- (3) 出願時に虚偽の記載があった者は、入学許可後であっても入学の許可を取り消すことがあります。

### 17. 合理的配慮を希望する入学志願者の出願

本学部では、障がい等のある者が、受験上及び修学上不利になることがないように、合理的配慮の提供を行っており、そのための相談を随時受け付けています。

受験の際に必要な合理的配慮については、内容によって対応に時間を要することもありますので、出願する前のできるだけ早い時期に理学部入試係まで相談してください。

また、相談は志願者本人、保護者及び教員等、本人の状態を詳しく説明できる者が行ってく



ださい。

(1) 受験上の合理的配慮の申請について

受験上の合理的配慮の提供を必要とする者は、以下の書類を出願書類とあわせて提出してください。

なお、出願後、事故等により受験上の合理的配慮が必要になった場合、又は出願の期限までに提出が困難な場合は、早急に理学部入試係までご連絡ください。

また、通常と異なる解答方法を希望される場合には、対応に時間を要するため、出願前のできるだけ早い時期に申請するようお願いいたします。

書 類 等	障害者手帳所持者	障害者手帳不所持者
受験上の合理的配慮希望申請書 ( <a href="https://www.ehime-u.ac.jp/entrance/outline/download/">https://www.ehime-u.ac.jp/entrance/outline/download/</a> )	○	○
障害者手帳（身体障害者手帳，療育手帳，精神障害者保健福祉手帳）の写し	○	×
受験上で必要な合理的配慮内容が記載された医師の診断書もしくは意見書の写し	○	○

(注) 日常生活において使用している補聴器，松葉杖，車椅子等についても，受験上の合理的配慮の申請が必要となります。なお，座布団，ひざ掛け，タオル(サイズは問わない)，ティッシュペーパー（袋から中身だけ取り出したもの），ハンカチ，目薬については，受験上の合理的配慮の申請は不要です。

(2) 受験上の合理的配慮の決定通知

提出された書類により，受験上の合理的配慮を決定し，決定された合理的配慮の内容は，申請者に郵送で通知します。

なお，決定の際に不明な点がある場合には，別途確認の連絡を行うことがあります。

(3) 連絡及び提出先

愛媛大学理学部入試係

〒790-8577 松山市文京町3番

電 話 089-927-9546

Eメール scigakum@stu.ehime-u.ac.jp

## 18. 正解・解答例又は出題意図の開示

本学部では，令和4年度第2年次編入学試験の正解・解答例又は出題意図の開示を，次のとおり行います。希望者は，期間内に申し込んでください。

請求期間：令和3年12月6日（月）～12月13日（月）

原則として郵送による請求のみとし，この期間内の消印があるものに限り受け付けます。

請求方法：94円分の切手を貼付し自己のあて先を明記した返信用封筒（長形3号：12cm×23.5cm）を同封し，「2年次○○コースの○○（試験科目名）の正解・解答例又は出題意図の開示請求」と朱書の上，理学部入試係へ請求してください。

## 19. 入学試験個人成績の開示

本学部では、第2年次編入学試験の個人成績を、受験者本人に限って、次のとおり開示します。希望者は、期間内に申し込んでください。

請求者：受験者本人に限ります。(代理人は不可)

請求期間：令和4年5月1日(日)～5月31日(火)

郵送による請求のみとし、この期間内の消印があるものに限り受け付けます。

請求方法：書面(記入例参照)により、令和4年度愛媛大学受験票と返信用封筒(長形3号12cm×23.5cm, 自己のあて先を明記し, 414円分の切手を貼ったもの)を同封して、理学部入試係に請求してください。

開示方法：理学部入試係に到着後、2週間程度で受験者本人あてに、郵送された受験票とともに簡易書留郵便で送付します。

(請求書面記入例)

	令和4年 5月 日
愛媛大学理学部長殿	
	請求者氏名 _____
	受験番号 _____
	連絡先電話        -        - _____
第2年次編入学試験個人成績開示請求書	
令和4年度第2年次編入学試験の個人成績を開示請求します。	

## 20. 個人情報の取扱い

本学では、出願受付を通じて取得した氏名、住所等の個人情報は、本学における出願の事務処理、出願書類等に不備があった場合の連絡、試験の実施、合格者発表、合格された場合の入学手続関係書類の送付等のために利用します。

なお、出願書類等に不備があった場合には、その訂正・補完を迅速に行っていただくために、本学を受験されること及び提出した出願書類等に不備があることを、緊急連絡先又は所属学校に通知する場合があります。

また、本選抜に係る個人情報は、合格者の入学後の教務関係(学籍、修学指導等)、学生支援関係(健康管理、奨学金申請等)、授業料等に関する業務及び調査・研究(入試の改善や志願動向の調査・分析等)を行う目的をもって本学が管理します。他の目的での利用及び本学の関係教職員以外への提供は行いません。

## 21. コースの概要

### 〈数学・数理情報コース〉

数学は、それ自身に内在する現象を探究する理論として、また、数学以外の諸分野の基礎付けを与える基礎科学として、あるいは、応用のための高度なツールとして発展してきました。特に、現代は情報科学の著しい発展の最中にあり、これを数学的に正しく活用し、更に発展させていくことが重要です。また、現代社会において高度な数学の活用・発展の期待も高いものとなっています。

数学・数理情報コースは、数学および情報科学の活用・発展の一翼を担うことで社会に貢献できる人材の育成を目的として、数学の広範な理論体系の基礎および情報科学の基本的知識・技能を教育するとともに、専門分野の枠を超えて協働できる能力を養う教育を行います。

### 〈物理学コース〉

物理学は現代の科学・技術とともに発展し、その基礎となっている学問の分野です。そのような学問を学ぶには、基礎的な部分をよく理解することが重要です。そのためにカリキュラムは2年次までは、物理学の中でも基礎となる力学、電磁気学、熱力学を十分に時間をかけて勉強できるように工夫されています。3年次からは、統計力学や量子力学に加えて、応用科目の授業も始まります。応用の範囲は小さいスケールでは素粒子から、大きいスケールでは宇宙全体まで自然界のすべてのスケールにわたっています。これは愛媛大学物理学コースの特徴でもあります。このような基礎と応用を学んだ後、4年次では各研究室に所属して、少人数でより専門的な勉強をしつつ、先端研究に取り組みます。

### 〈化学コース〉

化学は、物質の構造・性質・変化を原子・分子レベルで扱う科学です。近代以降の物質の理解と技術の進展に伴って開発された新物質・新機能が生活を豊かにし、文明を支えています。今日、医療・製薬、地球の構造・物質循環やエネルギー問題にわたる領域まで、化学の役割は広くかつ重大です。社会において「化学」のニーズが絶えることはなく、専門知識・実験技能、化学物質の取扱・安全に関するスキルが必要とされています。

化学コースでは、無機化学・有機化学・分析化学・生物化学・物理化学など化学の学問体系に基づき構成された体系的な講義・実験・課題カリキュラムを通して、化学の標準知識・技能、課題に対する理解力・探究力・応用力、および表現力・コミュニケーション力を培い、様々な分野で活躍できる能力を身につけることができます。化学コースで修得した広い視野と深い洞察力、鋭い分析力は社会で専門家として未来を切り拓く上で役立つのみならず、皆さん自身が生きていく際に様々な問題について考え、解決するための能力としても活用されるでしょう。化学を学び、これからの未来を担う人として成長されることを期待しています。

### 〈生物学コース〉

生物学コースでは、分子から個体、個体群から生態系と、様々なレベルでの生命現象を学びます。それによって身につけた広い視野と専門知識・スキルを基に、環境との調和を考慮しながら社会に貢献できる人材の育成をめざします。2年次から、コースに所属して

専門科目を体系的に学びます。生物学実験や野外での実習を通して調査・実験の基本スキルを身につけるとともに、基礎生物学演習やゼミナールにより表現力やコミュニケーション力を磨きます。3・4年次には課題演習や特別研究を通して研究を実践し、課題解決能力や論理的思考力を育みます。卒業後は全国の一般企業や官庁等に就職する人、教員になる人、本学や他大学の大学院へ進学する人がいます。

本コースには分子・細胞から生態系・環境レベルまで様々な研究分野があり、植物細胞の構造と機能、植物の成長生理、動物の発生様式やその進化、水域生態系における生物間相互作用、モデル生態系を用いた実験進化などを専門領域として研究を行っています。環境調査に関する社会貢献も他機関と連携して活発に行っています。

### 〈地学コース〉

地学コースは、固体地球～流体地球を対象として、地球の内部構造に関する実験や数値シミュレーション、地球を構成する岩石・鉱物の物質進化、造山運動などの地殻変動、海洋循環の力学過程、古生物の進化や地質時代のグローバルな地球環境変動などの基礎地球科学に関する教育・研究を行っています。

本コースでは、教育カリキュラムを通して、地球を対象とした高度な専門知識や技能を修得した人材を養成することを目指しています。卒業生は、“ジオドクター（地球のお医者さん）”と呼ばれる技術者として地質・建設コンサルタントや、中学校・高等学校教員、公務員、一般企業に就職します。また、大学院へ進学し、更に研究を継続して研究者を目指す人も少なくありません。